

ラオス北部の焼畑農業が作り出す環境とタケ

広田 勲 氏

(岐阜大学応用生物科学部)

ラオス北部山地部には焼畑農業によって作り出された二次的な自然環境が広がっており、住民はその環境を直接的、間接的に利用しながら生活している。本発表では、焼畑農業によって作り出された環境や地域の様々な生業との関係について概観したのち、ラオス北部に広く分布し代表的な植物資源でもあるタケに着目し、その生態学的動態および地域住民による多様な利用について紹介する。発表者はこれまでラオス北部のタケに関する広域的調査を実施し、現在50種以上の存在を確認しており、同定作業および分布域の情報の整理を進めている。また生態学的な情報とともにそれぞれの利用に関しても複数の村落において網羅的な調査を実施し、地域のタケ利用の全体像および周辺環境との関係性の解明に取り組んでいる。また断片的ではあるが、珍しいタケや珍しい利用についても調査を行ってきている。本発表ではラオス北部の農耕地生態系における代表的植物であるタケを通じて、人と自然を結ぶ多様な関係について考えたい。

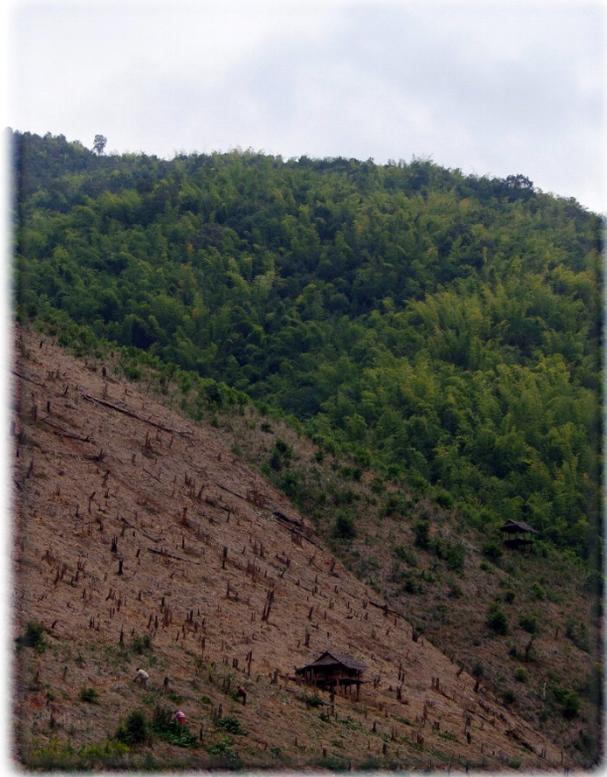
日時

2019年2月22日(金)

16:00~18:00

場所

京都大学総合研究2号館4階AA447



<お問い合わせ先>

小坂：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
kosaka[at]asafas.kyoto-u.ac.jp

柳澤：京都大学東南アジア地域研究研究所
masa[at]cseas.kyoto-u.ac.jp